

2003年2月6日

「福岡県建築鉄骨協議会規約」設立趣意書

拝啓

わが国の建築鉄骨は、明治28年東京京橋に建てられた集英社印刷工場に始まって以来、製鉄法の技術革新、圧延技術の向上、並びに設計技術や製作技術の発展に伴って。飛躍的に生産量を増大し、今日では構造別の年間着工面積で全建築物のほぼ三分の一という世界に類例がない大きな比率を占めるに至っています。わが国で建築物に鉄骨構造が採用される理由は、地震に対する信頼性が高いこと、良質の鋼材が安価に入手できること、および個人住宅から超高層建築や大スパン建築に至るまできわめて多様な用途に対応できることなどが挙げられます。このようなことから、今後も鉄骨構造はわが国の建築物の中心的な構造形式として利用されていくものと思われま

す。この中であって、設計や製作・施工に関する知識不足および技術の未熟さのために、不適格な鋼材の流通、低品質の製品、施工不良、不合理な設計等に起因する劣悪な建築鉄骨が存在したことも疑いのない事実です。これに対して、全国鉄構工業協会（旧全国鉄構工業連合会）では、多くの方々の協力の下に、鉄骨製作工場の認定、鉄骨製作管理技術者や建築鉄骨検査技術者の養成を行い、建築鉄骨製品の品質保証を目指す努力がなされています。

しかしながら、近年の長期にわたる不況による需要の低迷、さらに資材のリサイクル法による環境問題への対応が迫られるようになって、将来にわたって高品質の建築鉄骨を安定して供給するためには、生産現場だけではなく、建築鉄骨に関わる設計者・建設業者・鉄骨製作者・行政官・研究者の一致した協力が不可欠であると思われま

敬具

「福岡県建築鉄骨協議会」 設立発起人

発起人代表 河野昭彦（九州大学大学院人間環境学研究院教授）

濱田敬二（社団法人日本建築構造技術者協会九州支部支部長）

一口孝道（工業組合福岡県鉄構工業会理事長）